

J R 線立ち往生に伴う帰宅困難事案における本市の対応と今後の方向性について

令和 5 年 1 月 2 4 日からの大雪に伴い、市内の J R 線において駅間で立往生した列車が発生し、帰宅が困難となった方々が多数発生した事案における本市の主な対応について、関係部署で連携して検証を実施した結果を次のとおりお知らせします。

1 本市の主な対応

- 国土交通省が公開しているライブカメラの映像やインターネットへの投稿から、J R 西日本の電車が停滞しているとの情報を把握するとともに、現地情報の収集のため本市職員を京都駅・山科駅に派遣した。
- 同時に、J R 西日本からの情報提供前に、市災害対策本部事務局に帰宅困難者対策班を設置。派遣した本市職員からの情報等をもとに、帰宅困難な方に一時的に退避いただく施設の準備を開始した。

【京都駅での対応】

本市の帰宅困難者対策に一時滞在施設（休憩・宿泊できる場所）として協力いただいているホテル事業者等に対し、協定に基づき開設可否の連絡調整を行い、キャンパスプラザ京都も含め、8 施設約 8 0 0 人分を確保した（J R からの「トレインホテルの確保等により、帰宅困難な方々に安全な場所を確保できた」との報告を受け、実際には開設しなかった）。

また、地下鉄営業終了後も地下鉄改札付近に滞留した方々に交通局職員が簡易毛布 5 4 0 枚などを配布した。

【山科駅での対応】

山科駅は一時滞在施設がないことから、所管部局と調整のうえ、アスニー山科と地下鉄山科駅連絡通路を開放するとともに、簡易毛布 1, 5 0 0 枚を運搬・提供、また地下鉄駅設置の災害用自動販売機も開放した。

併せて、立往生していた山科駅付近の列車の現場に消防局部隊が出動。気分不良等を訴えた 9 名を担架で一般道まで搬送のうえ救急搬送するとともに、雪かき・融雪剤により一般道まで安全に歩行できるルートを確保のうえ、部隊の車両を活用して子ども・高齢者 1 8 3 名を山科駅まで搬送した（合計 1 4 往復、片道 1. 2 k m）。

- 以上のとおり、J R 西日本から立ち往生した列車やその対応に関する情報が限られた状況において、帰宅困難者対策の枠組みも使いながら、限られた時間と体制のもとで出来得る限り対応した。
- なお、今回の事案当事者である J R 西日本には、1 月 2 6 日に今回の事案の検証状況と、今後の帰宅困難を含めた危機管理事案の発生可能性に関する早期の情報提供を求めている。

2 今後の方向性

今回の事案の検証を通じて、同様の事案が発生した際における、本市の対応水準をより向上させるための、2 つの教訓が得られたと考えている。

今後、J R 西日本において進められている問題点の検証や改善策を踏まえつつ、この 2 つの方向性の具体化を図っていく。

(1) 情報収集の在り方の検討

J R西日本から、列車が立往生し多数の乗客が列車内に滞留している状況や同社の対応状況などの情報を得ることに時間を要したことから、確保が必要な帰宅困難な方に提供する施設のエリアや収容人数などが判明せず、開設準備の遂行の支障となった側面がある。このため、

- ・ 協定で取り決めるなど、J R西日本をはじめとする利用者規模が大きい鉄道事業者から、災害によらないものも含め帰宅困難な方が発生する可能性が生じた場合に、速やかにかつ前広に情報を提供いただく枠組みを構築する
- ・ ネットやSNSから本市も更に積極的に情報を収集するなど、情報収集対策を強化する。

(2) 帰宅困難者対策の拡充

今回は地震等に伴う帰宅困難者対策を柔軟に活用するなど、今回の事案への対応を図ることができたが、今後、夜間・大雪時も含めた危機管理事案により生じた帰宅困難な方に対しても、京都駅以外の駅での一時的な滞在場所の拡充や鉄道事業者等への働きかけの強化など、必要な支援を円滑に提供できるよう、マニュアルの点検・見直しも含め帰宅困難者対策を拡充する。

主な時系列の対応

日 時	内 容	
	(山科駅)	(京都駅等)
1月24日 15:06	大雪警報発表、市災害対策本部設置（第1号体制）	
19:00	国交省カメラ、ネット・SNSなどから、JRの電車停滞情報を把握	
22:20	帰宅困難者対策班（都市計画局、産業観光局、防災危機管理室で構成）を招集	
22:30	災害対策本部職員が山科・京都駅の情報収集のため現地に出発、情報収集を開始	
23:30	JR職員から消防局に「停車中の電車から気分不良の乗客を降車させている」旨の通報	
23:37	消防局部隊活動開始	
1月25日 0:08	JR職員から「一時的に退避する施設の確保などへの協力をお願いします」との要請	
0:30		（地下鉄営業終了後もJR、地下鉄改札付近に帰宅困難な方が滞留）地下鉄京都駅職員により簡易毛布等の配布を開始
0:45		京都駅周辺の一時滞在施設（協定締結施設）に開設可否の連絡調整を開始
1:50		JR職員から「西大路駅での市協力不要。京都駅での必要性は現地確認中」との情報
2:00	JR職員から「山科の約1,500人について、降車と駅までの徒歩移動を開始する」との情報	連絡調整の結果、一時滞在施設8施設約800人分の提供が可能と集約
2:10	アスニー山科、受入れ開始	
2:40		JR職員から「京都駅にトレインホテル計1,000人分を確保」との情報
3:40	地下鉄山科駅の災害用自動販売機を開放	
3:45	アスニー山科、定員に到達。地下鉄山科駅への連絡通路に誘導開始。	
4:15	アスニー山科・連絡通路に滞留する方への簡易毛布1,500枚の配布完了	
4:25		JR職員から「京都駅はトレインホテルで対応可能」との情報
4:30		開設可の一時滞在施設に対応不要の連絡
5:35	消防局部隊、現場引揚げ	
10:18	大雪警報解除（大雪注意報発表）、市災害対策本部閉鎖（警戒本部設置）	
12:40	利用者がゼロになったことに伴い、アスニー山科を閉鎖	